

## 膵外分泌不全

膵臓は血液内へとホルモンを分泌する内分泌機能と、消化管へと消化酵素を分泌する外分泌機能の2つの役割をもっています。それぞれの機能は膵臓のランゲルハンス島という部位が内分泌を、腺房細胞と呼ばれる細胞が外分泌を担っています。

腺房細胞より分泌される外分泌物質は以下の図の通りで、これには様々な消化酵素が含まれます。

外分泌物質	役割
トリプシノーゲン	トリプシン（消化酵素）
キモトリプシノーゲン	キモトリプシン（消化酵素）
プロエラスターゼ	エラスターゼ（消化酵素）
プロカルボキシペプチダーゼ	カルボキシペプチダーゼ（消化酵素）
プロホスホリパーゼ	ホスホリパーゼ（消化酵素）
重炭酸	胃酸を中和
プロコリパーゼ	コリパーゼ（リパーゼを活性化）
内因子	コバラミン吸収に必須
その他	

膵外分泌不全とはこの様な消化酵素を分泌する膵臓の外分泌に異常が生じる病気で、犬で比較的多く、猫では少ないといわれています。膵臓の腺房細胞からは様々な外分泌物質が分泌されており、膵外分泌不全ではこれらの膵臓から分泌される消化酵素が欠乏することによって消化吸収不良が発生します。犬では多くの場合、腺房細胞が委縮することによって発生するといわれていますが根本的な原因は不明です。

### <症状>

便量の増加、軟便、食糞、削瘦、食欲増進、腹鳴など。

一般的な下痢と似た症状もありますが、食欲があるにも関わらず体重減少があり、臭いがきつく未消化物の混じった便や下痢がみられることが特徴です。

### <診断>

上記のような臨床症状の有無

糞便検査 内部寄生虫への感染の有無を調べ、寄生虫がいないことを確認

脂肪染色による便中への消化能力の検査

フィルムテストによる便中の酵素活性の検査

血液中のトリプシン濃度（TLI）の測定 膵外分泌不全ではこの酵素活性が低下します。

<治療>

・消化酵素の補充

粉末もしくは顆粒状の消化酵素剤を食事と一緒に与え、現在不足中の消化酵素を補う

・ビタミン剤の投与

シアノコバラミンの補給

・食事療法

消化吸収のよい良質な食餌へと切り替えることにより胃腸への負担を軽減、効率のよい消化吸収を促し体力の回復をサポートする

・対症療法として

必要に応じて下痢に伴う全身症状の悪化に対する治療

ex. 点滴治療、抗生剤の投与など